

新たに信号機や一時停止の標識が設置されました

〽 県道広野小高線、県道広野停車場線 〽

県道広野小高線（通称・浜街道）が開通し、間もなく2カ月になります。すでに車やウォーキング等で通られ、お気づきなられた方も多いと思いますが、昨年末の開通にともない、浜街道と県道北上迫下北迫線が交わる交差点写真⑤（に新たに信号機が設置され、二ツ沼総合公園付近写真⑧）の片側1車線規制も解除されました。また、浜街道と県道広野停車場線が交わる交差点には、県道広野停車場線のより方面（写真⑥）と下り方面（写真⑦）に、それぞれ「一時停止の標識」が設置されました。交差点に進入する際は十分注意してください。

まだ浜街道を通ったことがないという方は、道路沿いに整備された防災緑地や遊歩道（写真②）、案内看板（写真⑩）や東屋のある休憩スペース（写真④）、駐車帯（写真③）なども整備され、東に太平洋（写真①）、西に阿武隈山脈の山々など（写真⑨）、すばらしい景色を眺めることができますので、ぜひお出かけください。



↑ 写真の向き

ひろの写真今昔物語

常磐線「北迫川鉄橋」

常磐線は、明治22年（1889年）の水戸・小山間の鉄道開通を皮切りに、明治29年（1896年）に東京・田端・水戸間が開業しました。明治31年（1898年）8月23日の久ノ浜・小高間の開業に合わせ広野駅も開業し、これにより、東京・田端・岩沼間が全線開通となりました。

今回ご紹介する写真（上）は、8月23日の久ノ浜・小高間の開業に先立ち、試運転で北迫川鉄橋を渡るB形機関車の様子を写した写真です。

震災以前の写真（下）と比べても、橋台部の構造が石積みだったことが見て取れますが、機関車を見つめる工事関係者や沿線の人々の様子から、長距離移動が容易にできる「鉄道」という新たな交通機関への期待が伝わってくるような気がします。

●久ノ浜・小高間開業当時の常磐線「北迫川鉄橋」
(明治31年8月)



●東日本大震災以前の常磐線「北迫川鉄橋」
(平成23年2月)



(写真提供・小泉屋文庫)